

2017年6月11日(日)朝10:10
6月第2回同主日礼拝式説教

主の聖靈降臨節第2、自由交歎会等
日本アライアンス庄原基督教會

説教題：第7のラッパ；天の大きな徵(しるし)

聖書：ヨハネの黙示録 15章1節

<口語訳>

新約聖書400～401頁

ヨハネの黙示録 15章1節

<新共同訳>

新約聖書469頁

ヨハネの黙示録 15章1節

<新改訳第3版>

新約聖書492頁

ヨヘネの黙示録15章1節

<塚本訳>

新約聖書808頁

主題：主イエス様から賜った聖靈の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と神の御子の愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讃美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、龍(悪魔・サタン)礼拝要求の獣との戦い、14章は、小羊への大讃美、神の福音啓示と地上の諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御靈の声、再臨の御子の穀物刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽への投入の裁き告知の幻の啓示です。

◇ヨハネの默示録15章1節は、16章からの金の鉢による神の最終の裁きへの序曲の一部です。

本論；

◇本日、ヨハネ默示録第15章1節から主の使信に思い・心をとめます。

◆默示録15章1節a；ヨハネは、天における驚くべきしるしを見ました。

◇1節；塚本訳◆主題

「1a また私はもう一つ(他)の大きな、驚くべき徴(しるし)を天に見た——」と、ヨハネは、第天の大きな、驚くべき徴(しるし)を見ました。

◇1節a；ヨハネは、天の大きな、驚くべきと表現したくなる徴(しるし)を見ました。

⇒「天の大きな、驚くべき徴(しるし)」は、ヨハネ默示録12:1の「大きな徴が天に顯れた——太陽を着た(一人の)女が、足の下には月を足台とし、頭には十二の星の冠を戴いていた徴(しるし)」につぐ、「天の大きな、驚くべき徴(しるし)」だったのです。

⇒先の徴(しるし)は、「龍(悪魔・サタン)」による「(一人の)女」=教会の迫害の徴でした。

- ⇒黙示録15:1の徵は、「龍(悪魔・サタン)」を初め神に敵対して来た者らへの「天の大きな、驚くべき裁きの徵」です。
- ⇒「徵(しるし)」は、「合図、奇跡」等の意味をもつことばで、「7人の天使」による、「最後の災厄」をさしています。
- ⇒今、地上で起こっているすべての災害や病気、事故を「神による最後の災厄」と理解しているのではなく、神に逆らう生き方に対して、それをやめなければ、「神による最後の災厄」を回避できないという「天の大きな、驚くべき徵」が、ヨハネによって啓示されたということが大事なことです。
- ⇒「バプテスマのヨハネ」が、「神の羔羊、神の御子イエス・キリスト様」の到来を告げる先駆となったように、「天の大きな、驚くべき徵・災厄」は、「神の羔羊、御子イエス・キリスト様」が再臨されて、「最後の災厄」による「神の復讐の憤怒」を実行に移される予告・先駆けの「徵(しるし)」だと、神は、ヨハネ並びに地上にある教会にメッセージを与えておられます。
- ⇒神信仰による応答・悔い改めが、求められる。

◆黙示録15章1節b;ヨハネは、最後の裁きを行う7人の天使が派遣されるのを見ました。

◇1節;塚本訳◆主題

「1b 最後の災厄を持つ七人の天使。(最後というのは)この災厄によって神の(烈しい)憤怒は成就される(からである)。」と、ヨハネは、最後の災厄を持つ七人の天使による神の(烈しい)憤怒が成就されるのを見ました。

◇1節b;ヨハネは、最後の災厄を持つ七人の天使による神の(烈しい)憤怒が成就されるのを見ました。

⇒「天の大きな、驚くべき徵(しるし)」は、「最後の災厄」であること、それが「7人の天使」よりもたされる「神の憤怒成就」であることが啓示されています。

⇒「神のことばによる預言」は、必ず成就するのであり、その「最大の徵(しるし)」が、「神の羔羊、神の御子イエス・キリスト様」の「誕生」であり、「十字架の死」であり、「死人の中からの復活」なのです。

⇒「7人の天使による金の7つの鉢」が、地上に投げられる「最後の災厄」は、不可避です。

⇒ヨハネ黙示録15章1節の「最後の災厄」の通告は、「黙示録6:1、8:1～5」の第1禍害、「黙示録8:7、12～19」の第2の禍害、「黙示録11:14～19」の第3の禍害予告を受けてのことなのです。

⇒神は、愛と忍耐のお方で、再々の禍害警告を与えつつ、「神への悔い改めの機会」を神に反逆するすべての敵対者に与えておられるのです。

⇒神が、アブラハムに約束の地カナンを与えると約束されて、イスラエル民族とされて、約束の地に定住するまで、約430年の時間が経過したのです。

⇒「神の羔羊、神の御子イエス・キリスト様」が、再び、神の羊である教会を天の永遠の都に携え上げるため、再臨して下さる約束は、既に2000年以上時間が経過しています。

⇒TM師が、「心と心の伝道・ネームレス」運動の中で語られたように、「ひとりがひとり」、「神の福音を伝え」、「神の福音に共に生き」、「共に生きた人」が、「他の人に神の福音伝え」、「神の福音に共に生きる」のみです。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの默示録は、1章1節、「イエス・キリストの默示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒 ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の默示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ默示録1章は、神の御子の再臨信仰と神の御子の愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讃美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、龍(悪魔・サタン)礼拝要求の獣との戦い、14章は、小羊への大讃美、神の福音啓示と地上の諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御靈の声、再臨の御子の穀物刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽への投入の裁き告知の幻の啓示です。

◇ヨハネの黙示録15章1節は、16章からの金の鉢による神の最終の裁きへの序曲の一部です。

⇒「**神の栄光の御座**」での「**24人の長老**」と「**4つの生き物**」の神礼拝・神讃美は、「**主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。

⇒地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讃美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しています。

⇒「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けて、願います。

⇒ヨハネ黙示録は、「**苦難**」先にある「**神の救い**」という「**神の恵み**」を見せ、また指示します。

⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、「**神のようになる**」目的を放棄していませんで、「**天では**」、「**彼らの(いる)場所が無くなった**」のですが、投げ落とされた地上で、「**神礼拝者・神信仰者**」を「**訴える本務**」を放棄することはしません。

- ⇒神は、144,000人の殉教者の訴える祈り、を聞き、「獸礼拝者・龍(惡魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々に「神の怒り」をもって、復讐して下さるのです。
- ⇒決して、神の怒りに先立ち、「獸礼拝者・龍(惡魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々を裁かず、むしろ、その罪・咎に気づけるように執成しをすることが求められています。
- ⇒多くの信仰の仲間の殉教を目にして絶望的になっている老使徒ヨハネに「今から後主にあって死ぬる死人は幸福である」、「彼らはその労苦を休息む(ことが出来る)」、「その(為した)業が彼らに隨いて行く」と天から声と神の内住の御靈の声が与えられて、大きな慰めを神は与えて下さったのです。
- ⇒「穀物の刈り取り」、「主にある死人の勝利」は、「雲の上に人の子の再臨」のより実現します。
- ⇒その実現の時まで、神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」(黙示録13:10、14:12)です。
- ⇒神のご計画は、時が来れば、事は行われる(237頁)のです。

⇒14～16節では、人の子なる神の御子が、死人の勝利の刈り取りをしたのに対し、17～20節では、第5の天使、第6の天使による葡萄の刈り集めは、「神の憤怒の大きな酒槽(さかぶね)」に投げ入れるという結末が語る通り、神の怒りの復讐が啓示されています。

⇒茲でも、神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」です。私たちに神が期待されるのは、①神礼拝に忠実であり、②神が創造した全ての人間が、神のみことばである聖書に聴く機会が与えられるように執成し祈ることです。

⇒黙示録15:1の天の大きな、驚くべき徴は、神に反逆する者への「神による最後の災厄・神の憤怒」です。それは、想像を絶する時間の経過を必要とする通告ですが、神の預言は必ず成就します。

⇒神の愛の律法・愛の福音に聴き従い、神礼拝を通して、日々の聖書のみことばを静聴し、祈り、服従することを通して、「神と隣人」を愛し、「最後の災厄」から逃れる道と共に生きる神の恵みの福音の道をあかしして生きたい！